校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツ活用事例

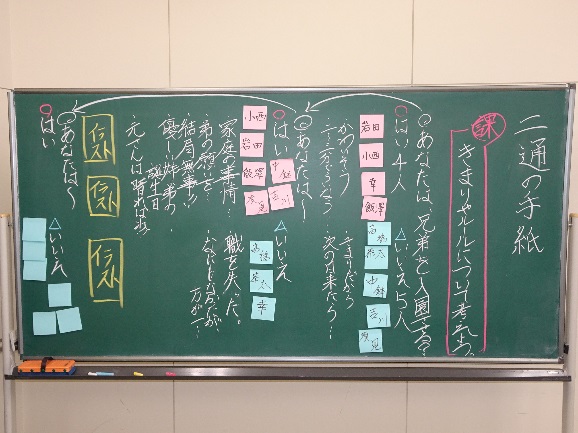
１　読み物教材　中学校②「二通の手紙」

２　参　加　者　中学校教職員12名　　空知教育センター職員６名

３　研修形態　グループ（１グループ３～４人）

□　コンテンツを活用した際の研修の成果など

|  |  |
| --- | --- |
| ①　演習で出された中心発問（○）  設定の理由（・） | ○　あなただったらどちらの手紙を大切にしたいですか。  　・「家族からの手紙」と「懲戒処分」のどちらを大切にしたいか意思表示させ、その理由も考えさせるため。その上で、「家族からの手紙」の裏には「優しさ」があるが、「懲戒処分」の裏にはどんな言葉が当てはまるかを考えさせることで、ねらいに迫らせるため。（例：社会のルールを守る、命を守る、生活を守るなど） |
| ②　受講者の声（○） | ○　パワーポイントの資料について、学習指導要領の要点が整理されており、分かりやすかった。  ○　発問を考え、交流することで、教材文に対する様々なアプローチ方法があることが理解できた。 |
| ③　成　果（○） | ○　校内研修で取り組みやすいコンテンツだった。  ○　発問づくりの演習では、考えられる発問が複数あり、様々な視点から授業づくりが可能であることを確認できた。  ○　「あなたは兄弟を動物園に入れますか」という発問を何度か行うことで、考えが揺さぶられていた。  ○　付箋（ネームプレートでも）による意思表示で、考えの移り変わりが見えやすくなり、評価にも活用できると感じた。 |
| ④　課　題（●）  改善策（・） | ●　導入の発問は、生徒を「きまりは大事だ」という前提に最初から立たせてしまうことにならないか。  ・この発問がなくても、日常生活のきまりやルールについて想起できると考えられる。  ●　展開後半での、池での死亡事故例、遭難事故例、賠償例の提示は妥当か。ねらいには近づくが、多面的な考え方になりにくいのではないか。  ・学校生活や家庭での身近な例を紹介することが考えられる。 |

□　道徳科の実践例（中学校②）板書例